

令和3年度第1回向日市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

■日 時 令和3年6月23日（水）午前10時から11時30分まで

■場 所 向日市役所3階 第7会議室

■出席者

（委 員）山川肇会長、山本英毅委員、佐々木和隆委員、村上忠司委員
山口初美委員、西川也寸志委員、安田晴子委員、佐々木容子委員
高野尚赫委員

（事務局）林環境経済部長

木村環境政策課長、横山環境政策課主幹、内藤環境政策課主査

■傍聴者 1名

■配付資料

- ・次第
- ・資料1 平成29年3月改正版における基本計画の評価
- ・資料2 これまでの排出抑制に係る施策の成果と課題
- ・資料3 ごみ処理の基本理念、基本方針及び減量化等目標
- ・資料4 3R促進に係る施策
- ・資料5 審議会スケジュール
- ・資料6 指定袋制度導入に関する進捗状況について

■審議会次第

1. 市長あいさつ

2. 委嘱状の交付

新委員に対し委嘱状の交付を行う。

3. 審議会委員、市職員の紹介

4. 諮問「次期向日市一般廃棄物処理計画の策定について」

安田市長から山川会長へ「次期向日市一般廃棄物処理計画の策定について」の諮問を行う。

5. 議題

(1) 平成29年3月改正版における基本計画の評価について、これまでの排出抑制に係る施策の成果と課題について

資料1、資料2に基づいて、説明を行う。

【質疑】

委 員：分別ステーション、拠点で回収したペットボトルの処理方法はどうか。

事務局：分別ステーション、拠点で回収したペットボトルは乙訓環境衛生組合に中間処理

として搬出している。資源ごみステーションについては、有価物として処理している。

委員：古紙などの集団回収の拡充を考えているのか。

会長：資料4で議論する。

令和元年7月の「ごみ減量を推進するための方策について」の答申において、古紙回収についても述べているが、これまでどのようなことを実施及び検討してきたか

事務局：市内で個別に古紙回収を行っている業者を調査した。同業者を市民の皆様に利用していただけるよう案内するには至っていない。

会長：令和2年6月から資源物ステーションを新設し、古紙回収を開始している。

委員：再資源化率が平成27年度4.2%、令和元年度4.4%とかなり低い。なぜか。

事務局：個人や自治会などが主体となって実施されている古紙の回収量が把握できていないことが大きい。

委員：再資源化率とは何か。

会長：市が関与して集めた資源物の量(分子)を、市が集めた可燃ごみなどすべてのごみの量(分母)で割った率のことである。

委員：資源物として出されたごみは、異物などを除去しどの程度再利用されているか。

事務局：缶が8割、ビンが9割、ペットボトルが9割程度である。

委員：パソコンなどの処分はどうしたらよいか。

事務局：市で回収していない。事業者でリサイクルすることになっている。市では再生事業者を紹介している。

委員：拠点回収、分別回収といった言葉が分かりづらい。

事務局：わかりやすい説明を行う。

委員：資源物の再資源化率は、缶、ビン、ペットボトルなどを集計したものだけでなくそれぞれ個々に率を算出し評価できるようにしたらどうか。

事務局：集計、個々それぞれの再資源化率を評価できるよう検討する。

委員：その他プラスチックがどのように処理されているか報告してほしい。

事務局：改めて報告する。

- (2) ごみ処理の基本理念、基本方針及び減量化等目標について、3 R 促進に係る施策について及び審議会スケジュールについて
資料3、資料4、資料5に基づいて、説明を行う。

【質疑】

会 長：計4回審議会を開催される予定となっているが非常にタイトなスケジュールとなっている。そこで本日、第1回は計画に入れるべき項目の頭出しをお願いしたい。第2回では、今回の意見を踏まえて作成した素案を審議したい。第3回では、答申案を基に審議し、修正後のものを答申としたい。パブリックコメント実施後、第4回で計画策定としたい。
まずは、各委員の皆さんから、今後計画に入れるべき項目について頭出しをしてもらいたい。

委 員：目標を令和18年度としているが、国が示した2050年脱炭素社会を実現するための計画とするべきであり、どのような施策で目標を達成するのかロードマップのようなものが必要ではないか。
数値目標については、毎年見直しをするべきである。
前計画の目標が達成できなかった原因は何か。
乙訓環境衛生組合の話になるが、ごみを燃やすときに発生するエネルギーを再利用エネルギーとして利用するべきである。

委 員：目標を達成するには市民の協力が絶対である。
前計画ではごみの有料化を検討するとあったが、今回も検討するべきである。

委 員：目標に対する現在地や目標達成できていない要因を明確化するなど、分かりやすい資料を作成してもらいたい。

委 員：古着(古布)についての計画を明確にするべき。
市民のリサイクル意識を高めるための啓発活動を行うべきである。

委 員：新聞紙(古紙)を分別ステーションで回収できないか。
その他プラスチックの分別が分かりづらい。プラスチックごみを1つのものとして回収できないか。

事務局：ごみの減量化目標(収集ごみ量原単位519g→409g)については、令和4年2月から開始する指定ごみ袋の導入により見込んだ数値である。

また、再資源化率についても、指定ごみ袋の導入により4.4%から12.8%に向上すると見込んでいる。

いずれにしても、市民の皆様、事業者、市が協力して進めていかななくてはならないと考える。

毎年、目標数値に対して成果をどのようにして検証するかについては、今後の課題である。

古着(古布)については検討していきたい。

新聞紙(古紙)を分別ステーションで回収することについては、場所に制限があるなど色々な問題があるので今後の検討課題としたい。

会長：プラスチック製品と容器包装プラスチックをプラスチックごみとひとくくりにして回収できないかとのことであるが、国でもプラスチックごみについて新しい法律が作られたところであり詳細が未定であるため、今後の全国的な動向を注視していく必要がある。

また、処理をする施設の整備も必要なため、もう少し時間がかかると推測される。乙訓でも焼却熱から電気を生成する取り組みを行っている。京都市では生ゴミなどからメタンガスを取り出しエネルギー化する取り組みが始まっている。こういった取り組みを乙訓でも検討する必要がある。

委員：ごみの有料化を検討すべきである。

有料化すれば、ごみの減量が図れる。

同じ処理施設を利用している長岡京市、大山崎町の基本計画と矛盾しないようにしてほしい。

会長：施設に関わる部分は、2市1町共同で考えるべきだが、ごみの減量や資源化率の向上を目指した計画については、市独自があったり、共通のものがあったりして良いと思う。

委員：資源ごみステーションでその他プラスチックの回収ができないか。

分別ステーションの時間帯を7～9時としているが再検討できないか。

事務局：検討したい。

委員：事業系ごみが家庭系ごみに混入している事例がある。分けて出すよう啓発してほしい。

委員：毎年、計画の見直しをすべきではないか。

事務局：常設されているこの審議会で議論願いたい。

会長：計画の見直しは5年毎になるが、実施状況の見直しについては毎年行うこととしたい。

(3) 指定袋制度導入に関する進捗状況について
資料6に基づいて、説明を行う。

【質疑】

委員：販売店は決定しているか。

事務局：市内のスーパー、ホームセンターなどで販売される予定である。

会長：他に意見がないようなら、これで審議を終わりたい。

概ね1週間後までの期間で何か意見等あれば事務局に申し出てもらいたい。

事務局は今回の意見等を踏まえ資料を修正し次回の資料を作成してもらいたい。

事務局：本日、委員の皆様から頂いた意見を踏まえ計画案を策定していきたい。

つきましては、次回は、7月下旬頃開催したいと考えている。

日程が決まり次第、お知らせする。